

# Joe の豪ドル道場 (331)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髓に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに

対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)



(豪ドル円日足)



(米ドル円日足)







(ユーロ米ドル日)



<長期予想ビジョン> 年末から来年にかけて米ドル底打ちの見方

( 12月末のレートはもう変更しません)

通貨ペア	2010年12月末予想推移 (レート/変更日/実勢)
 	0.8700 (予想レンジ 0.75-0.95) (31Mar 2010/0.9150) 0.9100 (予想レンジ 0.9000-0.9800) (24Sep 2010/0.9580) <b>0.9500 (予想レンジ 0.9300-1.0300) (18Oct 2010/0.9845)</b>
 	87.00 (予想レンジ 73.00-93.00) (31Mar2010/85.5) 86.45 (予想レンジ 73.00-88.00) (31Mar2010/85.5) <b>85.50 (予想レンジ 75.00-88.00) (18Oct2010/80.10)</b>
 	100.00 (予想レンジ 85.00-102.00) (31Mar2010/93.50) 100.00 (予想レンジ 82.00-102.00) (11Aug2010/85.35) 95.00 (予想レンジ 82.00-97.00) (27Sep2010/84.25)

	90.00 (予想レンジ 75.00-93.00) (18Oct2010/81.35)
 	1.3000 (予想レンジ 1.27-1.45) (31Mar2010/1.3400)

## 2009年12月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	12月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.9000	0.8980
AUDYEN	81.00	83.50
USDYEN	90.00	93.00
EURUSD	1.4500	1.4320

## 2010年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8700	0.8404
AUDYEN	82.65	74.26
USDYEN	95.00	88.37
EURUSD	1.2500	1.2167

### <キーワード>

中国金融引き締め、北朝鮮問題、再び欧州財政不安(格下げ観測)、米追加緩和(QE2)(11/3) 緩和への疑問?、RBA7回目の利上げ(11/2) - 2009年10月、11月、12月、2010年3月、4月、5月、11月、25bp利上げ)、豪ドル米ドルパリティー達成10/15、日銀実質ゼロ金利政策(10/5)、ドル円15年ぶりの安値更新82.88で日銀介入(9/15)安値80.24(11/1)、前回85円割れ84.82(2009/11/27)、米国景気減速、中国景気減速、中国貿易黒字拡大、人民元弾力化政策、米国出口戦略後退、新鉱物資源利用税(MRRT)、中国不動産投資規制、中国の銀行融資規制、金価格史上高値更新1431.30(12/06)、米商業不動産問題、ドルキャリートレード、中国の豪州資源投資、日米ゼロ金利はいつまで続く?ドル円100円超えから反落し100円に戻らず(2009年4月以降)、RBA豪ドル買い介入(10月、11月2008年)、RBA78セント台で利食いの売りの噂(2009年5月)、RBAの市場でのネット豪ドル売りは2010年9月526mio、8月397mio、7月570mio、6月1229mio、5月445mio、4月350mio、3月892mio、2月424mio、1月295mio、2009年12月946mio、11月313mio、10月307mio、9月830mio、8月576mio、7月705mio、6月1.94bio、5月1.55bio外為市場で豪ドルネット売り(一種の売り介入との捉え方も)

### <注目イベント>

20（月） 日銀金融政策決定会合、月景気動向指数、独生産者物価指数、ユーロ圏経常収支、ユーロ圏消費者信頼感、21（火） 日銀金融政策決定会合（20日～発表）、RBA 議事録、数、小売売上高

22（水） 通関ベース貿易収支、BOE 議事録、英 3Q GDP・確報値、経常収支、米 3Q GDP・確報値、住宅価格指数、中古住宅販売件数、23（木） 東京休場（天皇誕生日） NZ 3Q GDP、カナダ GDP、米耐久財受注、個人所得、個人支出、新規失業保険申請件数、ミシガン大消費者信頼感指数、新築住宅販売件数、24（金）、27（月） ウェリントン、香港、ロンドン、トロント、シドニー、ヨハネスブルグ休場、28（火） 日本全国消費者物価指数、失業率、有効求人倍率、鋳工業生産、 ウェリントン、シドニー、ロンドン、トロント休場

、米 S&P/ケース・シラー住宅価格指数、消費者信頼感指数、リッチモンド連銀製造業指数

29（水） ユーロ圏マネーサプライ M3、独消費者物価指数、30（木） 米新規失業保険申請件数、シカゴ購買部協会景気指数、31（金） 英 GFK 消費者信頼感調査

### <当地の気になる情報>

英豪系鋳山大手リオ・ティントは23日、豪鋳山会社リバーズデール・マイニングを39億ドルで買収することに合意したと発表した。リバーズデールは、アジアで需要が急増している原料炭の鋳床をアフリカに保有している。

リオはリバーズデール株の買い付け価格を1株当たり現金16豪ドルに引き上げたが、取引が再開されたリバーズデール株は一時16.84豪ドルまで上昇。市場では対抗買収案が提示されるとの思惑が浮上している。リバーズデールをめぐっては、インドの国営企業で構成する企業連合が買収を検討していることを明らかにしているほか、事情に詳しい複数の筋によると、アングロ・アメリカン、アルセロールミタル、エクストラータなども関心を示している。

## <豪ドル相場解剖>

・豪ドルトレンド 6カ月間 ----波動相場から上昇トレンドへ

豪ドル→97セント中心±500ポイント、

豪ドル円→80円中心±500ポイント)

・足元のセンチメント

堅調

・足元の予想

下値は押し目買いでサポート

(大局ー相場力学) 2008年7月から10月にかけて大暴落(史上高値98セント台→60セント台、104円台→55円台)した豪ドルは、2008年末～2009年年始にかけて下部の“鍋底”を形成して上昇エネルギーを蓄えた。2009年3月より上昇モーメント徐々に積み上がり年間を通して上昇トレンドを形成(94セント台、85円台まで)し2010年3月まで上昇トレンド継続した。4月に戻り高値93セント台、88円台の高値を付けた後、上方エネルギー放出→再蓄積のサイクルを繰り返してきたが、5月に下方モーメント爆発して80セント台、71円台まで大幅下落。その後は概ね81セント台～93セント台、73円台～80円台の比較的大きなレンジ内での“波動相場”を形成。9月以降豪ドルはレンジ相場を抜けて上昇トレンドに乗り史上高値の1AUD=1USDのパリティに達し(10/18)1.0100台後半、豪ドル円は82円台後半の高値を付けた後、上昇エネルギー放出して反落したがその後再度パリティ達成!

#### (2002年～今日までの動き)

2000～2001年の国内景気後退で軟調推移していた豪ドルは(史上安値0.4775、2001年4月)、世界経済の拡大基調を背景とした国際商品価格の大幅上昇や、国内景気回復に伴うRBAの金融引き締めによる金利格差が追い風となり、2002年から長きにわたり上昇トレンドを形成した。アセットバブルの急膨張を背景に2008年7月には史上高値<0.9848、史上高値(7/15)、104.47円(7/21)ただし豪ドル円の史上高値は107.88(2007/10/31)>を示現したが、直後リーマン破綻に象徴される世界金融恐慌が勃発し暴落を演じた。0.6009(2008/10/27)、55.20円(2008/10/24 史上安値)まで下落し、2008年末～2009年年初にかけて下値圏で“鍋底を相場”を形成。2009年年初より各国協調によるドラスティックな財政・金融両面からの景気刺激策実施を受けて世界的に株価が2009年3月に底離れたのを契機に4月以降上昇に転じ、6-8月は77セント-84セント、70円-82円での中段保合を形成。世界の株価や商品相場の堅調と国内景気の前想を上回る回復を背景にRBAは2009年10月から3ヶ月連続で政策金利を25bpずつ引き上げて史上最低レベル(3.0%)のオフィシャルキャッシュレートを12月には3.75%とした。豪ドルも10月以降再度上昇トレンドを開始し11月には2009年年間高値<0.9406(2009/11/16)、豪ドル円は85.32(2009/10/23)>を付けた。2010年年初は新年の世界経済への期待感、株価堅調、商品相場の上昇などを背景に93セント台、86円台まで上伸してスタートしたが、その後中国の金融引き締め(預金準備率引き上げ)、ギリシャ初め南欧諸国の信用リスク、オバマ大統領の新金融規制案でリスク許容度が低下し

て商品相場、株価が調整局面に入り、更に RBA 金利据え置き決定 (2/2) で一時 86 セント割れ、76 円近辺に大幅下落 (2/4)。その後は豪州の金利格差(3 月利上げ)、景気格差、商品相場の堅調が豪ドルをサポートする一方、ギリシャ問題など南欧の信用リスク問題や中国の金融引き締めなどのリスク要因が売り材料となり一進一退を繰り返した。

4 月に入り 5 回目の利上げも後押ししての高値 0.9389、88.07 円まで上昇したが、根強いギリシャ問題、人民元切り上げ観測、ゴールドマンサックス訴追問題などでリスク回避の動きも強く、5 月の 6 回目の利上げを挟んで 0.91~0.93 台、85 円~87 円台での UP & DOWN の揉み合いを繰り返した。しかし 5 月半ばにかけて欧州ソブリンリスクの世界蔓延懸念から市場パニックとなる中、リスクアセット全般が大幅下落し、豪ドルも 80 セント台、71 円台まで暴落したが、5 月末にかけてさすがに徐々に落ち着きを取り戻し 85 セント台、78 円台まで値を回復した。6 月金利据え置き、Q1GDP の結果は予想の範囲内、高値 0.8523、79.03 円まで上がって再び欧州問題、弱い米雇用統計を受けたリスク回避の動きで 80 セント台、73 円台に反落。7 月に入り欧州懸念に加えて、米景況感悪化、中国景況感悪化と重なり 83 セント台、72 円台まで大幅下落。発表された 6 月豪雇用統計の非常に強い数字や資源税に対するギラード新政権の妥協も好感され、加えて欧州危機に対しても欧州銀行へのストレステスト実施であく抜け感強まり 88 セント台、78 円台に再び上昇したのち、中国の弱い指標や米景気後退懸念を嫌気して 86 セント台、74 円台まで反落。8 月は米景気不安から米金利低下し豪ドルは 92 セント台に上昇する一方、ドル円の 84 円台への急落を反映して豪ドル円は 75 円台まで下落。連邦選挙結果は予想通りのハングパーラメントだったが、89 セント近辺、76 円近辺に小戻し (8/23) しかしドル円が 83 円台をつけ“円全面高”になるに至り、豪ドル 0.8800 近辺、73 円台まで急落 (8/24) 後、円高警戒感から一時 90 セント台、77 円台に反発 (8/30)。9 月は米国の強い Q2GDP、予想より良い米 8 月雇用統計を受けて 91 セント台後半、一時 78 円近辺に上昇 (9/3)。ギラード政権続投による資源税を嫌気し、ドル円の 83 円台続落を受けて 90 セント台、76 円台前半に反落後、強い 8 月雇用統計、スティーブンス RBA 総裁のタカ派的発言を受けて 94 セント台に上昇。また豪ドル円も日銀の円売り介入の報に 81 円台後半まで反発した。10 月は RBA 金利据え置きで一旦 95 セント台半、79 円台に下落したが、根強い米追加緩和期待から豪ドル続伸、9 月の強い雇用統計を受けて 99 セント台、81 円台に上昇！！ (10/7) 一旦 97 セント台、80 円割れに小反落したが、米緩和期待やアジア通貨高を受けて再び 1.00 直前まで上昇、豪ドル円はドル円続落を受けて 80 円半ばに軟化 (10/14) バーナンキ議長の講演 (追加緩和示唆) の後、史上高値 1.0003 をヒット (10/15)。利食い調整に 0.97 台、78 円台に反落。しかし G20 明けには、米ドル支援策欠如や、米金融緩和観測の高まりから再び 99 セント台、80 円台に反発 (10/25) 10/27 発表された Q3CPI が予想を下回り 96 セント台、78 円台に反落後、予想外の利上げ、更に米国の QE2 を受けて 1.0200 手前、82 円台後半まで反発。しかしその後強い米雇用統計後の米金利上昇観測と、アイルランドの財政懸念、中国の利上げ懸念からリスク回避の動き強まり 97 セント台、80 円台 (11/12) に反落した。売り一巡後は 99 セント台半ば、83 円近辺まで戻したが北朝鮮の砲撃の後、リスク回避の売りに 97 セント台前半、80 円台半ばまで一時値を崩しその後小幅買い戻し (11/24) しかし RBA 総裁のハト派的発言を受けて 96 セント台まで反落した (11/26) また弱い GDP を受けて 95 セント台 79 円台まで続落した (12/1)。しかしその後は弱い米雇用統計を受けて 99 セント台後半、82 円台まで反発した後、米減税措置の延長を好感した米ドル買い戻しがでて 97 セント台に反落するなど (豪ドル円は 82 円台キープ) UP & DOWN を繰り返す (12/8) 強い 11 月雇用統計で 99 セント手前、82 円台後半まで上伸後、小反落 (12/10)。FOMC を前に 1.00 台、83 円台半ばに上昇したが、FOMC 後

は0.9900 近辺に反落。ユーロ安に連動して 98 セント台前半に反落したが、下値は実需にサポートされ豪ドルはパリティ達成 (高値は 12/23 の 1.0066)、豪ドル円はドル円の下落と相殺しあって 83 円近辺の揉み合い (12/24)

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.9000-1.0500、豪ドル円 73.00-88.00 円

### (小局) 豪ドル/ユーロは続伸

さすがに先週金曜日の 24 日クリスマスイブは米国休場と言うこともあり、各通貨ともに最大振幅 60 ポイント程度の休暇相場になってしまった。前回指摘した通貨番付<強い順に豪ドル→スイスフラン→円→米ドル→ユーロ=ポンド>を引きずったまま、おそらく今年も終わるのであろう。

豪ドルも国内景況は雇用の強さとは裏腹に個人消費や消費者ならびに企業信頼感が低迷しているなど、諸外国から見るほどにはこの世の春を満喫しているわけではない。ただ何度も言うように為替は二国通貨間の交換比率であるために、やはり他国との比較における景気格差、金利格差に勝る豪ドルが通貨競争をリードしている形となっている。

ただ市場の焦点は豪州国内経済にはなく、もっぱら米国経済及び米金利動向、加えて欧州不安の行方といういわゆる二大通貨圏の事情に振り回されている。

ブッシュ減税の延長が財政赤字の更なる拡大懸念に直結するとの考えよりは、むしろ景気浮揚効果に焦点が当たり、“善悪二つの金利上昇” (つまり債権増発による金利上昇懸念と景気回復観測による金利先高感) が米ドルをサポートしている点は、やはり数ヶ月前の米ドル暴落懸念時には考えられなかったことであろう。ここから来年年明けまでは、さすがに相場も冬枯れ (北半球)、夏枯れ (南半球) であろう。ただやはり市場の焦点は米金利動向と欧州不安にある点は変わらず。市場の通貨ポジションも年末を控えてかなり縮小したであろうし、これらの材料を新年相場がどのように取り入れていくか熟視したいところ。豪ドルは読み通りに再びパリティを達成したが、週末に発表されたたび重なる中国の金融引き締が今後豪ドルへの懸念材料となるような気がする。

(向う 1 週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.9850-1.0150 豪ドル円 82.00-84.50)

### <豪ドル売り・買い指数—現状分析 (前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビュー訂正) >

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10 (最弱) から+10 (最強) まで独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。たとえば 10 項目であれば、理論上総合判断では最強を+100、最弱を-100 となる。各要因は相関 (または逆相関) 関係があるが (たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因 (-) となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因 (+) となりうるなど)。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で“現状分析”が主眼。これを元に将来を予測する一助とする。総合判断の数字が「±50」以上など大きくぶれた時がチャンス！！

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ (経済・政治)	<p><b>*Good</b></p> <p>10月 WESTPAC leading index(0.3%、前回 0.0%) (12/22)、12月 WESTPAC 消費者信頼感指数+0.2% (前回-5.3%) (12/15)、11月雇用統計 (失業率 5.2%、予想 5.2%、前回 5.4%、就業者数+54.6千人、予想+20千人、前回+29.7千人) (12/9)、11月 ANZ 求人広告+2.9% (前回+0.7%) (12/6)、11月トロントドミニオン証券インフレ率 0.4% (前回 0.3%) 3.9% (3.8% 前回年率) (12/6)、10月貿易収支 +2625mio(+2000mio 予想、+1760mio 前回) (12/2)、10月建設許可件数+9.3% (予想+1.4%) (11/30)、Q3 賃金インデックス (+1.1%、予想 +1.1%、Y/Y+3.5%、予想 3.3%) (11/17)、11月熟練工求人数+2.5% (前回-0.5%) (11/17)、Q3住宅価格 0.1% (Q/Q 予想 0.0%) 11.5% (Y/Y 予想 13.4%) (11/1)、10月 AIG 製造業活動指数 49.4 (前回 47.3) (11/1)、Q3NAB 企業信頼感指数 (9、前回 6) (10/26)、豪 Q3PPI、(前期比 +1.3%、予想+0.5%、前回+0.3%、前年比+2.2% 予想+1.4%、前回+1.0%) (10/25)、豪政府連邦予算案は景気見通しを上方修正 2009/10+2.0% (前回+1.5%)、2010/11+3.25% (前回 2.75%) (5/11)、RBA 四半期金融政策報告 2010年 GDP 予想 3.5% (前回 3.25%) 2011年 3.5%、(前回 3.75%)、基調 CPI 予想 2010年 2.75%、2011年 2.75% (前回と同じ) (11/5)</p>	+2	+2

	<p><b>*Bad</b></p> <p>11月 NAB 企業信頼感 6 (前回 8)、企業景況感 4 (前回 2) (12/15)、10月小売売上高-1.1% (+0.4%予想、+0.3%前回) (12/2)、<b>Q3GDP 前期比+0.2 (予想+0.4%、前回+1.2%) 前年比+2.7% (予想+3.4%、前回+3.3%) (12/1) Q3 経常収支 (-78.3 億ドル、予想-66 億ドル、前期-54.3 億ドル) (11/30)、Q3 企業収益 (-1.5%、予想+4.0%、前回+18.9%--2009 年 Q2 以来の低水準) (11/29)、予想+5.8%、Q3 建設活動 (-2.1%、予想+2.0%、前回+3.5%) (11/24)、<b>豪 Q3CPI(前期比 0.7%、前年同月比 2.8%前回 0.6%、3.1%)、RBA アンダーライニング CPI 前期比 0.6% (前回 0.5%) 前年比 2.4% (前回 2.7%) (10/27)、Q2CAPEX (民間設備投資) (-4.0%、予想+2.3%、前回-0.2%) (8/26)</b></b></p>		
市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消などに関わる)	NYK ダウは木曜日 14 ポイント上昇で 11,573 ドル、VIX 恐怖指数+1.02 で 16.47 センチメントミックス。	0	+1
短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMM ポジションなどから判断) 調整の有無	シカゴ IMM の通貨先物ポジションは豪ドル買いコントラクト 43,352 (前週比買いが+16,709 コントラクト、12/14 付)、短期筋の市場ポジション豪ドルのロングやや増える。	-2	-2
商品相場	原油は 91 ドル台に上昇、金は 1384 ドル台に下落。CRB インデックスは 329.38 (木曜日)。石炭、鉄鉱石共に 9 月以降値下げ圧力。(石炭-7%?)しかし来年はまた値上げの模様。	+2	+3
金利	<b>利上げは来年 Q2 以降との見方が増える。</b> 市場予想は 2011 年で 0.25~0.50%の利上げに。(今まで 2011 年末 6.00%だった)。米豪 10 年利回り格差 <b>2.4%に小幅縮小。</b>	-1	-1
需給	<u>年末の豪州輸出企業の実需カバー豪ドル買い。</u> 年末の投資需要? 今年石炭、鉄鉱石.価格増加 (50-60%以上) を見込んだ需要。 <u>ただ年後半は</u>	+3	+3



	<p>中国景気スローダウンで値下げ圧力も。今年は昨年より中国など海外からの直接投資、M&amp;Aに絡む豪ドル買い需要が増えそう。豪州穀物商社AWBはカナダの肥料メーカーアグリウムの1.2bio買収案を受け入。フォスタービールに対する買収の話。アサヒビール、豪州第三位の飲料会社P&amp;Nを364mio豪ドルで買収。リオ・テイントによる35億ドルリバーズデール・マイニング買収の話。シンガポール証券取引所のASX84億ドル買収の話（まだ問題はあある）。一方豪ドル高から海外企業買収案件も。</p>		
テクニカル（チャート）	<p>一目均衡表の雲（0.9862-1.9874、80.60-81.16）豪ドルは雲の上を上昇、豪ドル円は雲で揉み合い。ボリジャーバンド（0.9757-1.0050、81.62-83.94）の豪ドルは上限に達し、豪ドル円は上限を前に足踏み。RSIは豪ドル63.16%でoverboughtやや増え、豪ドル円は59.34%でoverboughtやや減る。豪ドル上昇トレンド、豪ドル円揉み合いの様相。</p>	+2	+2
その他（日替わり）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーロ弱し</li> <li>・ 米ドルは強し</li> <li>・ 中国関係—金融引き締め</li> <li>・ 資源超過利潤税、労働党支持率下落</li> </ul>	-2 -1 -1 -2	-2 -1 +2 -2
<p>“<u>現状</u>” 総合判断 （必ずしも今後の予測とはならず）</p>	若干上げバイアスに	+1	+5

(\*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

## <トレーディング実践> とりあえず目標達成!

申し訳ないが、旅行に行っている間にドル円、豪ドルともに利食いオーダーが全部出来てしまった。まあたまにはこういう展開もあってバチはあたらないであろう。相場は本当に行かないときは、穴が開くほどスクリーンを見ているも行かず、行く時は遊びに夢中になっただけでも行くものだ。今週の前半は豪州含めて英連邦中心に休場となる市場が多く、実質的には今年の相場も終わったようなものであろう。“ドル円が低すぎる”という自分のレベル感は達成されることなく今年も終わり、不本意と言え、不本意ではあるが、まあレベル感とは別に最後はドル円ショートで利食うことが出来たのは、やはり自分がアナリストやエコノミストではなくトレーダーであったための、当然の選択であると自己弁護してとりあえず今年も終了というところ。豪ドルは何度か言っているように年末まで実需の買いが出ようが、一方それに乗った投機筋の豪ドルロングもまだ残っているので、ここから(1.0020)一方向的に上昇する可能性は少ないように思う。

・前回のポジション USDYEN short at 84.00 PT 83.50 (DONE) 83.00(DONE)

SL 84.70

AUDUSD long at 0.9950 PT 1.0000(DONE) 1.0050(DONE)

SL 1.9770

・現在のポジション なし

本日の予想レンジ： 豪ドル米ドル 0.9970-1.0070 豪ドル円 82.50-83.50

## <懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その三百二十九) 相場は目先のニュースもさることながら思惑で動く。織り込み期間中が読みやすい。(技術面)

重要な指標や政策金利の決定が相場に与える影響は大きく、時にはそれを機に通貨のその後のトレンドを創ることにもなりえる。したがって、重要指標や金融政策発表は将来にわたり影響を及ぼすことにありうるが、一方その指標や政策発表自体を収益チャンスと捉える場合はどうであろうか？もちろん自分の予測が正しくて事前のポジションが大きな収益を生めばそれに越したことはない。しかし残念ながら我々は神様ではなく、全知全能とはいかない。そこで、実際の発表結果の前の段階、つまり織り込み期間にポジションを仕込むという作戦はいかがであろうか？たとえば最近好調な豪州雇用統計であるが、発表される数値が悪いと言う予想が何日か前から出回っているとしよう。市場が大きく豪ドルロン

グに傾いていれば、発表までの織り込み期間でかなりの調整売りが出ると憶測される。つまり事前予想値と市場のポジションを検討すれば、ある程度の動きが予測できる場合が結構多いことに気づくものである。この思惑が当たれば何も結果発表までポジションを引張る必要はないであろう。結果発表前のある程度利に乗ってきたところで“サンキュー”で収益をポケットに入れるべきであろう。もし事前にある程度の儲けが出たのであれば、“お土産”として若干のポジションをもって結果発表に臨むのは全く問題ないであろう。

<気になる出来事、発言>

<p>出来事 (少々長いレビュー!!)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国人民銀行—1年物貸出金利を 25bp 引き上げて 5.81%、ベンチマーク預金金利を 25bp 引き上げて 2.75%に (12/25)</li> <li>・ 米国 10年ぶりの国勢調査で人口は 3億 870万人 (10年前から 9.7%増) (12/21)</li> <li>・ 豪労働党支持率 34%に下落。8月の選挙以来最低 (The Australian 12/20)</li> <li>・ ムーディーズがアイルランドの信用格付けを 5段階下げて BAA1、見通しネガティブに (12/17)</li> <li>・ ECB 増資 (50億ユーロ→107.6億ユーロ) と欧州システミック委員会も設立を発表 (12/16)</li> <li>・ IMF 理事会、アイルランド向け 225億ユーロの融資を承認 (12/16)</li> <li>・ 米 FOMC 政策金利 0.00-0.25%不変、米国債購入計画に変更なし (6000億ドル、期限来年6月末) (12/15)</li> <li>・ OPEC 総会—日産 24.845mio バレルの生産枠据え置きを発表 (12/12)</li> <li>・ 中国今年 6回目の預金準備率引き上げ (50bp) (12/10)</li> <li>・ 豪 11月雇用統計 (失業率 5.2%予想 5.2%前回 5.4%、就業者数+54.6千人、予想+20千人、前回+29.7千人) (12/09)</li> <li>・ RBA 理事会—オフィシャルキャッシュレート 4.75%に据え置き (12/7)</li> <li>・ 米 11月雇用統計、失業率 9.8% (予想 9.6%前回 9.6%)、NFPR+39千人 (予想+145千人、前回+172千人、民間+50千人) (12/3)</li> <li>・ 豪州第三四半期 GDP 前期比+0.2% (予想+0.4%、前回+1.1%)、前年比+2.7% (予想+3.4%、前回+3.3%) (12/1)</li> <li>・ 米韓合同軍事演習実施 (11/28)</li> <li>・ EU、IMF、アイルランドは約 850億ユーロ規模のアイルランド救済策で大筋の合意 (11/28)</li> <li>・ RBA スティーブンス総裁—早期利上げの見通しは妥当でないと発言 (11/26)</li> <li>・ 北朝鮮が韓国延坪島を砲撃し、韓国が応戦で砲撃戦に (11/23)</li> <li>・ 中国がインフレ抑制策を発表 (11/22)</li> <li>・ アイルランドが EU、IMF の支援を受けると発表 (11/18)</li> </ul>
-----------------------------	--

- ・ APEC 首脳会議（横浜、11/13）
- ・ 豪 10 月雇用統計（失業率 5.4% 予想 5.0% 前回 5.1%、就業者数+29.7 千人、予想+20 千人、前回+49.5 千人）（11/11）
- ・ 米 10 月雇用統計、失業率 9.6%（予想 9.6% 前回 9.6%）、NFPR+151 千人（予想+60 千人、前回-41 千人、民間+159）（11/5）
- ・ 金価格史上高値 1398.30（10Z）に上昇（11/5）
- ・ 米 FOMC—金利据え置き 0.00-0.25%、資産購入を来年の 6 月まで 6000 億ドル限度に。月間は 750 億ドル（11/3）
- ・ 米中間選挙—下院共和党が過半数を取る見通し。上院民主党が過半数死守か（11/3）
- ・ **RBA 利上げ 4.50%→4.75%（11/2）（7 回目）**
- ・ 米国 Q3GDP 速報値（前期比年率）+2.0%（予想+2.0%、前回+1.7%）（10/29）
- ・ 豪州 Q3CPI 前期比 0.7%、前年比 2.8%、アンダーライイングインフレーション前期比 0.6%、前年比 2.4%（10/27）
- ・ G20 声明—競争力を増進する目的の通貨切り下げを回避し、市場原理に基づく為替レートを支持（10/24）
- ・ 中国第三四半期 GDP+9.6%（予想+9.5%、前回+10.3%）（10/21）
- ・ 中国人民銀行預金貸出金利を 0.25% 引き上げ（10/19）
- ・ **豪ドル米ドル史上初パリティ—達成 1AUD=1.0003USD（10/15）**
- ・ ワシントン G7、IMF、世銀年次総会（10/8-10/10）
- ・ 米 9 月雇用統計、失業率 9.6%（予想 9.7% 前回 9.6%）、NFPR-95 千人（予想+5 千人、前回-54 千人、民間+65 千人、政府機関-159 千人）（10/8）
- ・ 豪 9 月雇用統計（失業率 5.1% 予想 5.1% 前回 5.1%、就業者数+49.5 千人、予想+20 千人、前回+30.9 千人）（10/7）
- ・ 日銀金融政策決定会合で利下げ（0.1%→0.00-0.1%）（10/5）
- ・ RBA 理事会で金利据え置き（4.5%）（10/5）
- ・ 米下院対中制裁法案を可決（9/29）
- ・ 9 月日銀短観—大企業製造業 DI(+8、予想+7、前回+1)、先行き（-1、予想+3、前回+3）（9/29）
- ・ 北朝鮮労働党代表者会で金ジョンウン氏、事実上の後継者に（9/28）
- ・ 米下院歳入委員会—人民元切り上げで対中制裁法案を可決（9/24）
- ・ 日米首脳会談（9/23）
- ・ 米 FOMC—金利据え置き 0.00-0.25%、金融緩和バイアス継続（9/22）
- ・ 金価格史上高値 1290 ドル（10Z）に上昇（9/21）
- ・ 政府・日銀ドル売り円買い介入（82.90 近辺から 85 円台まで、ロンドン市場、NYK 市場まで）（9/15）
- ・ 民主党代表選、菅氏勝利（9/14）
- ・ 豪 8 月雇用統計（失業率 5.1% 予想 5.2% 前回 5.3%、就業者数+30.9 千人、

予想+25千人、前回+23.5千人) (9/9)

- ・ 豪州選挙結果(下院) —労働党 76 議席<過半数> : 保守連合 74 議席 (9/7)
- ・ オバマ大統領総額 2900 億ドルの景気刺激策発表 (9/7)
- ・ 米 8 月雇用統計失業率 9.6% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-54 千人 (予想-105 千人、前回-131 千人) (9/3)
- ・ 豪州 Q2GDP—前期比+1.2% (予想+0.9%、前回+0.7%) 前年比+3.3% (予想+2.8%、前回+2.7%) (9/1)
- ・ 民主党党首選、菅、小沢二氏が出馬表明。投開票日 9 月 14 日 (9/1)
- ・ 日銀臨時会合 (8/30)
- ・ 小沢元幹事長民主党党首選挙への立候補表明 (8/26)
- ・ ドル円 15 年ぶりの安値 83.60 円に下落 (8/24)
- ・ 豪州総選挙 (ハングパーラメントに) (8/23 現在 150 全議席中労働党 72、保守合同 71、緑の党 1、無所属 3) (8/23)
- ・ 本来タカ派のウエーバー独連銀総裁の発言「欧州中銀は銀行への流動性供給を来年も続けるべき」欧州景気に対する警戒感高まる (8/20)
- ・ 日本 Q2GDP+0.1% (前期比予想+0.6%、前回+1.1%) +0.4% (前期比年率予想+2.3%、前回+4.4%) (8/16)
- ・ 日銀ドル円 85 円近辺でレートチェック (日銀確認) (8/12)
- ・ 豪 7 月雇用統計 (失業率 5.3% 予想 5.1% 前回 5.1%、就業者数+23.5 千人、予想+20 千人、前回+37.4 千人) (8/12)
- ・ 米 FOMC 金利ターゲット 0.00-0.25% で不変、「長期にわたる異例の低金利継続」、MBS・政府機関債の償還資金を米国債に再投資 (8/10)
- ・ 米 7 月雇用統計失業率 9.5% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-131 千人 (予想-65 千人、前回-221 千人) (8/6)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (8/3)
- ・ 米第二四半期 GDP +2.4%(予想+2.6%、前回+3.7%) (前期比年率) (7/30)
- ・ NZ 準備銀行利上げ 2.75%→3.00% (7/29)
- ・ 豪州 Q2CPI 前期比 0.6%、前年比 1.0%、アンダーライイングインフレーション前期比 0.5%、前年比 2.7% (7/28)
- ・ EU ストレステスト 91 行中 7 行不合格 (7/23)
- ・ カナダ中銀政策金利引き上げ 0.50%→0.75% (7/20)
- ・ ギラード首相 8 月 21 日総選挙を発表 (7/18)
- ・ 中国の第二四半期 GDP +10.3%(前回+11.9%、予想+10.5%) (7/15)
- ・ Moody's ポルトガル格下げ Aaa2→A1 (7/13)
- ・ 民主党参院選の結果過半数割れ (7/12)
- ・ ワールドカップサッカー—スペインがオランダ破り優勝 (7/11)
- ・ 米財務省中国を為替操作国に認定せず (7/8)
- ・ 6 月の豪雇用統計 (就業者数+45.9k、予想+15.0k、前回+22.8k、失業率

- 5.1%、予想 5.2%、前回 5.2%) (7/8)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (7/6)
- ・ 6 月米雇用統計、非農業部門就業者数-125 千人 (予想-130 千人、前回+433 千人、失業率 9.5%、予想 9.8%、前回 9.7%) (7/2)
- ・ 資源超過利潤税 30%で政府/鉱山会社合意 (7/2)
- ・ カナダ G8、G20 (6/26-/27)
- ・ 米 FOMC で出口戦略出ず (6/23)
- ・ 中国人民銀行人民元の柔軟化方針を発表 (6/19)
- ・ 欧州連合、金融機関のストレステスト実施で合意 (6/17)
- ・ EU 首脳会議 (6/17)
- ・ ムーディーズ、ギリシャ格付けを A3 から BA1 に格下げ。見通しは良好 (6/14)
- ・ FIFA ワールドカップ開催 (6/11)
- ・ BOE 政策金利据え置き (0.5%、予想 0.5%) ECB 政策金利据え置き (1.0%、予想 1.0%) (6/10)
- ・ 5 月の豪雇用統計 (就業者数+26.9k、予想+20.0k、前回+25.3k、失業率 5.2%、予想 5.4%、前回 5.4%) (6/10)
- ・ NZ 準備銀行利上げ (2.50%→2.75%) (6/10)
- ・ 米国 5 月雇用統計 (非農業部門就業者数+43.1 千人—内国勢調査臨時雇用 +411 千人 (予想+500 千人、前回 290 千人、民間は+41 千人、失業率 9.7% 予想 9.8%、前回 9.8%) (6/4) .
- ・ 豪州 Q1GDP 前期比+0.5% (予想+0.5%前期+1.1%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前期+2.8%) (6/2)
- ・ 鳩山首相辞任 (6/2)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (6/1)
- ・ 社民党連立政権を離脱 (5/30)
- ・ フィッチスペインを AA+に格下げ (5/28)
- ・ 米中戦略経済対話 (5/24-25)
- ・ 独政府、株、国債、CDS の空売り規制を独主要 10 行に実施 (5/18)
- ・ EU ギリシャに一回目の融資 145 億ユーロ実施 (5/18)
- ・ 4 月の豪雇用統計 (就業者数+33.7k、予想+22.5k、前回+19.6k、失業率 5.4%、予想 5.3%、前回 5.4%) (5/13)
- ・ ギリシャ政府正式に 200 億ユーロの支援実施を要請 (5/11)
- ・ 豪州連邦予算案 (2010/2011 年度) 発表 (5/11)
- ・ 英国保守・自民連立政権 (キャメロン首相) 成立 (5/11)
- ・ EU 財務相会議で EU 安定化プログラムに合意 (5/9)
- ・ EU 総額 750bio(内 IMF250bio 拠出)のユーロ支援で合意 (5/9)
- ・ 欧州各国リーダー/IMF は公式にギリシャ救済策 (80bio/30bio) を承認

(5/8)

- 米国4月雇用統計 (NFPR +290k、予想 190k、前回 230k、失業率 9.9% 予想 9.7%、前回 9.7%) (5/7)
- ソブリンリスク問題拡大を嫌気し NYK ダウ一時 1000 ポイント (1 万ドル割れ) 下落 (5/6)
- **RBA 利上げ 4.25%→4.50% (5/4) (6 回目)**
- EU 財務相会議でギリシャ救済策決定—総額 1,100 億ユーロ (EU が 800 億ユーロで 300 億は本年分、IMF が 300 億ユーロ、金利 5%)
- 中国今年3度目の預金準備率 0.5%引き上げで 17.0%に (5/2)
- 米国 Q1GDP 前年同月比+3.2% (予想+3.4%、前期+5.6%) (4/30)
- FOMC 長期間の低金利維持を再確約、FF 金利の誘導目標は引き続き 0.0%-0.25%(4/28)
- S&P スペインの格付けを AA に引き下げ (4/28)
- 豪州 Q1CPI、RBA インフレ率 3.05% (予想 2.95%、前回 3.4%) (4/27)
- S&P ポルトガルの格付けを A+から A-に引き下げ (4/27)
- S&P ギリシャの格付けを BB+ (ジャンク債等級) に引き下げ (4/27)
- ギリシャ政府 EU と IMF に支援要請 (4/23)
- ムーディーズ、ギリシャを格下げ A2→A3(4/22)
- IMF 豪州の GDP 見通しをアップワードリバイズ  
2010年 3.0% (前回 2.5%)、2011年 3.5% (前回 3.0%) (4/22)
- RBA 議事録 (4 月分) —金利は平均をわずかに下回っている。追加利上げの可能性 (4/20)
- 米証券監視委員会(SEC)サブプライム関連 CDO 取引でゴールドマンサックスを詐欺容疑で提訴 (4/16)
- 中国 Q4GDP (前年同期比) 11.9% (予想 11.7%、前期 10.7%)
- ワシントン核保障サミット (4/12-13)
- EU16 カ国財務相—ギリシャの要請があった場合 2 国間融資で 300 億ユーロまで資金供与で合意。期間 3 年、金利 5%程度 (4/11)
- 中国の 3 月貿易収支-\$0.7bio (2004 年 4 月以降初めての赤字) (4/10)
- 豪州 3 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.3%) 就業者数+19.6 千人 (前回 -4.7 千人) full time job +30.1 千人 (4/8)
- **RBA 利上げ 4.00%→4.25% (4/6) (5 回目)**
- 3 月米国雇用統計、失業率 9.7%、NFPR+162 千人 (前回 9.7%、-14 千人) (4/2)
- 日銀短観 (Q3) 大企業製造業 DI-14 (予想-14、前回-24)、先行き-8 (予想-8、前回-18) (4/1)
- 欧州首脳会合でギリシャ支援策合意—二国間融資と IMF の支援を組み合わせ (3/25)

- ・ フィッチ、ポルトガルのソブリン格付けを AA から AA-に引き下げ (3/24)
- ・ Google 中国の検索事業から撤退 (3/22)
- ・ 米医療保険改革法成立 (3/21)
- ・ インド中銀金融引き締め (リバースレポとレポ金利をそれぞれ 25bp 引き上げ (3/19)
- ・ FOMC—長期間にわたって金利を異例の低水準で据え置くことを継続 (3/16)
- ・ 豪州 2 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.2%) 就業者数+0.4 千人 (前回 +56.5 千人) (3/11)
- ・ ギリシャ議会 4.8bio ユーロの財政削減策を予定通り可決 (3/6)
- ・ 米国 2 月雇用統計失業率 9.7% (予想 9.8%、前回 9.7%)、非農業部門就業者数-36 千人 (予想-68 千人、前回-20 千人) ((3/5)
- ・ 豪州 Q4GDP 前期比+0.9% (予想+0.9%、前回+0.2%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前回+0.5%) (3/3)
- ・ **RBA 利上げ 3.75%→4.00% (3/2) (4 回目)**
- ・ 独・仏銀ギリシャ債購入計画 (2/26)
- ・ フィッチ、ギリシャの 4 大銀行を格下げ BBB+→BBB(2/23)
- ・ 米 FRB 公定歩合を引き上げ (0.5%→0.75%) (2/18)
- ・ 中国人民銀行今年二度目の金融引き締め。預金準備率を 50bp 上げて 16.50%に (2/12)
- ・ EU 首脳会議—ギリシャ救済で合意。具体策は来週に持ち越し (2/11)
- ・ 豪州 1 月雇用統計—失業率 5.3% (予想 5.6%、前回 5.5%)、就業者数+52.7 千人 (予想+15 千人、前回+37.5 千人) (2/11)
- ・ カナダ・イカルイト G7—2010 年も景気刺激策の継続で合意 (2/7)
- ・ RBA 四半期金融報告 (GDP、CPI 予想を若干上方修正) (2/5)
- ・ 12 月豪州小売売上高-0.7% (予想+0.2%、前回+1.4%) (2/4)
- ・ RBA 理事会—金利据え置き 3.75% (2/2)
- ・ 米国予算教書 (2/1)
- ・ 米国 Q4GDP (前年同月比) +5.7% (予想+4.6%、前回+2.2%)
- ・ 米上院バーナンキ FRB 議長の再任を賛成多数で承認 (1/28)
- ・ FOMC 政策金利を 0.00%~0.25%で据え置き (1/27)
- ・ IMF2010 年世界経済見通しを 10 月時点の 3.1%から 3.9%に引き上げ (1/26)
- ・ 中国の 2009 年 GDP8.7% (1/21)
- ・ オバマ大統領金融規制案発表 (1/21)
- ・ 日本航空会社更生法の適用を申請 (1/19)
- ・ 鳩山内閣支持率年初の 56%から 45%に下落 (1/18)
- ・ 豪州 12 月雇用統計 (雇用者数+35.2 千人、予想+10 千人、前回 31.4 千人、



失業率 5.5%、予想 5.8% 前回 5.7%) (1/14)

- 中国預金準備率引き上げ発表 (1/12)
- 米国 12 月雇用統計、NFPR -85 千人 (前回+4 千人)、失業率 10.0% (前回 10.0%) (2010/1/8)
- 菅新財務相 (2010/1/7) --もう少し円安に進んだ方がよい発言。
- 藤井財務相辞任 (健康上の理由) (2010/1/6)
- 豪州 Q3GDP -+0.2% (前期比、予想+0.6%、前回+0.6%) +0.5% (前年比、予想+0.7%、前回+0.6) (12/16)
- **RBA 理事会で 3 カ月連続 25bp 利上げ 3.50%→3.75% (2009/12/1)**
- ドル円 14 年 (95 年 7 月以来) ぶりの安値 84.80 に下落 (11/27)
- ドバイショックドバイ・ワールドの債務返済延期要請 (11/26)
- 米国 Q3GDP 改定値 (前期比年率) 2.8% (速報値 3.5%) (11/24)
- 豪州 10 月雇用統計 (失業率 5.8%、前回 5.7%、就業者数+24.5 千人、前回+39.8 千人) (11/12)
- RBA 四半期金融政策報告で 2009 年 GDP 見通しを従来の+0.5%から +1.75%に引き上げ。2010 年 GDP 予想を 3.25% (11/6)
- **RBA 理事会利上げ 3.25%→3.50% (11/3)**
- **中国第三四半期 GDP +8.9%(予想+9.0%、前期+7.9%) (10/22)**
- **RBA 理事会—利上げ 3.00%→3.25% (10/6)**
- 鳩山内閣発足 (2009/9/16)
- 豪州 Q2GDP 前期比、前年同期比ともに+0.6% (予想前期比+0.2%、前回 +0.4%) (9/2)
- 中国第 2 四半期 GDP 前年比 7.9% (7/16)
- **豪州第 1 四半期 GDP 前期比、前年比ともに+0.4%でリセッション入り回避 (6/3)**
- GM 破産法適用申請。負債総額 1728 億ドルで米歴代 3 位 (2009/6/1)
- 日本の第 1 四半期 GDP-15.2% (前期比年率、戦後最悪) (5/20)
- 豪州連邦予算案(2009 年 7 月～2010 年 6 月)発表。\$57.6bio 赤字予想(5/12)
- ECB25bp 利下げして 1.00%、ユーロ建てカバーボンド買い入れ (5/7)
- クライスラー破産法申請 (4/30)
- **RBA 利下げ 3.25%→3.00% (4/7)**
- **ロンドン G20 (2009/4/2)**
- ダウ一時 6467 ドルの新安値に下落。(3/6) 終値安値は 3/9 の 6547 ドル
- 豪州 Q4GDP -0.5% (前期比) (3/4)
- **米景気対策法 (7870 億ドル) 成立 (2/17)**
- 日本の第 4 四半期 GDP 年率-12.7%(2/16)
- 豪上院 420 億ドル景気対策法案を可決 (2/13)
- RBA 利下げ 4.25%→3.25% (2009/2/3)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オバマ大統領就任式 (2009/1/20)</li> <li>・ 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (2008/12/19)</li> <li>・ 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%~0.25%に引き下げ (2008/12/16)</li> <li>・ RBA 利下げ 5.25%→4.25% (2008/12/2)</li> <li>・ 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5回目) 0.6100 近辺。10月24日、27日、28日、11月13日に続く)</li> <li>・ 米金融安定化法 (7000億ドルの TARP が柱) 成立 (2008/10/3/08)</li> <li>・ リーマン・ブラザーズ自力再建を断念し連邦破産法 11 条に基づく更生手続き適用を申請 (2008/9/15)</li> </ul>
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国人民銀行 Hu Xiaolian—インフレ圧力が上昇しており、金融政策は慎重でなければならない (12/24)</li> <li>・ 野田財務相—必要とあれば為替に関して断固たる措置を取る (12/24) 3</li> <li>・ ユンケル・ユーログループ社長—ユーロは危機に陥っておらず、観測は事実無根 (12/21)</li> <li>・ キャメロン英首相—銀行が引き続き正当化できない役員の高額報酬を払うのであれば、銀行に対する課税引き上げの可能性 (12/19)</li> <li>・ カウエン・アイルランド首相—格下げは失望。やや行き過ぎではないか (12/18)</li> <li>・ 海江田経済相—一日も早いデフレ克服が一番大事。デフレ克服の中から、消費税引き上げを展望 (12/17)</li> <li>・ バロツッ・欧州委員会委員長—ユーロは困難にもかかわらず非常に安定した通貨である (12/17)</li> <li>・ EU ファンロンバイ大統領—EU 首脳は新しいストレステストで合意した。EU 首脳は ECB の行動を支える (12/17)</li> <li>・ ガイトナー財務長官—救済コストは住宅対策より大きくない見込みで GDP の 1%未満。米国はまだ重大な問題に直面している。米住宅市場には安定化し始める兆候がある。米経済は大きな進展を遂げた (12/16)</li> <li>・ ガイトナー財務長官—ブッシュ減税の延長に関して経済に強い影響を与える (12/14)</li> <li>・ オルドネス・スペイン中銀総裁—銀行が危機だとしてもユーロの他国にくらべれば影響は限定される。スペインの銀行は危機に対して上手く対応した。</li> <li>・ サルコジ仏大統領—米ドルの準備通貨としての役割について協議を呼び掛ける (12/13)</li> <li>・ ゴンザレス・パレルモ ECB 専務理事 (スペイン政府の経済改革は適切とした上で) 約束した政策を実施しなければならない。EU は強いガバナンスを</li> </ul>

	持っており、財政赤字に対する対応力は改善している (12/13)
--	----------------------------------